

岸田内閣 大半が「靖国」派

改憲右翼議連に17人

4月発足した岸田新内閣のうち、岸田文雄首相ら自由民権籍の閣僚計20人中17人

が「靖国」派改憲・右翼団体と一体の二つの議員連盟のうちのいずれかに加盟してきましたことが、本紙調査で明らかになりました（表參照=②面）。岸田内閣は、歴史修正主義とともに改憲・右翼政治推進の役割でも、「安倍・菅直系」です。閣僚らが加盟する「日本会議国会議員懇談会」と「神道政治連盟（神政連）国会議員懇談会」は、それぞれ改憲右翼団体の「日本会議」、「神道政治連盟」と「自存自衛」「アジア解放」の「正義の戦争」として肯定・美化してきた靖国神社と同じ立場から、「憲法改正」や、天皇・首相の靖国公式参拜を求めるなど、戦前への回帰を志向。シェンダー平等や選択的夫婦別姓

制度の導入には断固反対の立場です。

岸田首相も両議連に加盟し、同党総裁選でも同党の改憲4項目を実現すると表明。日本外國特派員協会での記者会見（9月13日）では、靖国神社参拝について、「國のため尊い命をささげた方に尊崇の念を示すことが政治家にとって大切な姿勢だ」と発言。同24日の

討論会でも「時期、状況を考えた上で、参拝を考えたい」と表明しています。

主要閣僚では、萩生田光一経済産業相が日本会議国は、靖国神社参拝について、「國のため尊い命をささげた方に尊崇の念を示すことが政治家にとって大切な姿勢だ」と発言。同24日の

入閣の末松信介文科相と古川禎久法相は、副幹事長と幹事をそれぞれ務めています。